

# とがち帯広FC (十勝トレセンU-12)

## 第30回船越さくらカップ報告書



### 大会結果

#### ☆予選リーグ (15分-5分-15分)

第1試合	とがち帯広FC	4-0	フットワーククラブ (神奈川県)
第2試合	とがち帯広FC	2-0	有度FC (静岡県)
第3試合	とがち帯広FC	7-0	富士宮東サッカースポーツ少年団 (静岡県)

3勝で決勝トーナメントへ

#### ☆決勝トーナメント (20分-5分-20分)

準々決勝	とがち帯広FC	4-1	藤崎SC (千葉県)
準決勝	とがち帯広FC	1-1 (PK3-2)	高部JFC (静岡県)
決勝戦	とがち帯広FC	1-0	ダイナモ川越東 (埼玉県)

参加32チーム中 第1位

2018. 3. 31~4. 1  
蛇塚グラウンド他

報告者 (一社)十勝地区サッカー協会 技術副委員長 北田和敏  
担当コーチ代表 牛木将太

## はじめに

今年は3月上旬のドカ雪の影響で雪解けが遅れ、例年行っている白樺高校グラウンドでの練習ができなく、室内の練習で調整をただけで遠征に出発しました。

しかし、今年も船越サッカー少年団の水野さんのご配慮で大会前日の到着した日に駒越サッカー少年団とスクデット（奈良県）と練習試合をすることができ、大会前に外の感触を少し取り戻すことができたことは、心身共にとても大きかったです。

第30回となる今回の大会は参加チームを24チームから32チームに拡大するなど開催する側にも参加する側にも特別であり、しかも大会期間中の静岡は気温も天気もとても過ごしやすく、桜も満開でモチベーションとしても最高の状態での開催となりました。

ここにその2日間の選手たちの奮闘ぶりや成果と課題をまとめましたので、参考にしてください。

### 3月31日（土）

#### ☆予選リーグ第1試合目      とかち帯広FC    4-0    フットワーククラブ（神奈川県）

有度第1小学校にて開催された予選リーグ。フットワーククラブは事前の情報でかなり良いチームということが分かっていた上に初戦ということもあり、集中して臨みました。

試合は4-3-3の2ボランチで臨みました。開始直後から優勢に進めることができ、前半2分、左サイドでハーフライン付近からドリブルで相手を引きつけ、その外をオーバーラップしたボランチにパスが通り、シュート。待望の先制点を奪いました。

前半5分にはGKからのパントキックを中央付近で落とし、拾ったボランチが右サイドヘスルーパス。抜け出した右フォワードがシュート。2点目。

前半6分、奪ったボールがトップ下に渡り、そこから右サイドヘスルーパス。受けた右サイドはそこからセンタリングをあげ、センターフォワードが綺麗に合わせて3点目。

前半11分、右サイドからスルーパス崩れをセンターフォワードが粘ってシュート。4点目。その後も優勢に進め、前半を4-0で終了。

ハーフタイムには、「攻めはこのまま続けていく。」「攻めている時のDFのポジショニングについて声を掛け合って確認する。」等を確認しました。

後半はメンバーを総入れ替えして臨みました。後半も両サイドを使った攻撃で優位に試合を進めましたがアタッキングゾーンでの精度がやや悪く得点に至りませんでした。また、後半は攻められる時間が増えましたが速い寄せと体を張ったプレーで失点をゼロに抑え、試合終了となりました。緊張する初戦で得点面でも守備面でも良い形をつくって終えることができたのは大きかったです。

#### ☆予選リーグ第2試合目      とかち帯広FC    2-0    有度FC（静岡県）

組み合わせ上、仕方ないのですが、とかちは連戦となった予選リーグ第2試合目。両チーム共に初戦を勝利したため、決勝トーナメントに向けて大事な1戦となりました。

試合開始早々、お互いシュートまでいく攻撃をする一進一退の攻防が続きました。特に DF 裏にスループスを出され、GK が対応するパターンが何度か続きました。

そんな中、前半9分、中央で奪ったボールをセンターフォワード→左フォワードへとつないでシュート。先制点。

前半12分には、中央から右サイド→中央→トップ下とつなぎシュート。2点目と短時間で追加点を奪うことができました。

その後も DF からのスループスでフォワードが抜けてシュートするなどやや優勢な状況で前半が終わりました。

ハーフタイムには、「ボランチのポジショニングについて、バランスを取って片方がスペースを埋める。」等を確認しました。

この試合も後半はほぼ総入れ替えで臨みました。

後半3分、右サイドから中央へとつなぎボランチがファーストシュート。

後半6分、右からのコーナーキックをセンターバックがヘッドで合わせてシュートしましたが、GK 正面。

その後もボールを支配する時間が長く、攻め続けましたが、後半はノーゴールで試合終了となり、2-0で2勝目を勝ち取りました。

### ☆予選リーグ3試合目

#### とかち帯広FC 7-0 富士宮東サッカースポーツ少年団（静岡県）

予選リーグ最終試合。事前のミーティングでは、「これまで守備は安定しているのでリスク管理をしっかり意識しながらプレーし、この試合も失点しないこと。」を確認して臨みました。

開始早々の前半2分、左サイドから DF へ落としそこからトップ下へ。そしてシュート。先制点。

開始7分、ペナルティエリアの右角付近でFK。しかし、バーに当て得点とはならなかったです。そのこぼれ球を右サイドで奪い中央へパス、CF がシュートするも入らず。

試合はボールをほぼ支配し、相手コートでの展開が続き、相手ボールを奪い、シュートまでいく形も何度もありましたが、追加点を奪えずに前半が終了。

メンバーを入れ替えて臨んだ後半もほぼ相手コートでプレーし、後半1分、2分、8分、10分、12分、14分と得点できました。その内容も両サイドからの崩し、PK、DF からのスループス、CK と様々な形で獲ることができました。最終的には7-0で勝利し、予選リーグを3戦3勝で1位となり、あこがれの芝生のコートで行われる決勝トーナメント（蛇塚会場）へと駒を進めることができました。

### 4月1日（日）

#### ☆決勝トーナメント 準々決勝 とかち帯広FC 4-1 藤崎SC（千葉県）

今年は J リーグの関係で日本平 IAI スタジアムを使用できず、決勝トーナメントと2位トーナメントは蛇塚サッカー場の芝生コートで行いました。日本平のピッチを経験できなかったのは残念でしたが、蛇塚の芝生もとてもいい状態で、この時期に綺麗な芝生のピッチでサッカーをすることができるというとても素晴らしい経験をする事ができま

した。

準々決勝の相手は昨年度の準決勝で敗れた藤崎で、今回の予選リーグも大量得点で勝ち上がってきたチームでした。試合前のミーティングでは「サッカーの原則（ゴールを奪う、ゴールを守る）をしっかりとやり抜くこと。」「チームとして連動し続けること。」を確認して臨みました。

試合開始後、数分間はとかちの左サイド、藤崎の右サイドの攻防が続き一進一退でした。

前半4分には左サイド深くの場所でFK。

前半5分には左サイドからのスループাসでオフサイド。

前半9分には中央→右サイド→中央。

前半11分には右サイド→中央→左サイド。

というように両サイドを使い、ゴールに迫っていましたがなかなか得点に結びつきませんでした。

守備は両センターバックを中心に体を張って相手攻撃を跳ね返し続けていました。

そして、前半13分、左サイドで得たスローインから中央にパスでつなぎ、最後はセンターフォワードのシュートが決まり、待望の先制点を奪いました。

その後も、やや優勢に攻めていましたが、前半18分、左サイドでFKを与えてしまい、今大会初めての失点をしました。

ここで前半が終了。ハーフタイムでは「相手ボールの時のウイングのポジショニングを修正して、攻撃時に人数をかけられるようにしよう。」「ボールが逆サイドにあるときのDFのポジショニングを注意しよう。」ということを確認しました。

後半1分、左サイドから中央、そこからスループাসでセンターフォワードが抜けたと思ったがオフサイド。

後半3分、右サイドから中央へつなぎシュート。

というように両サイドからの攻撃ができていたが得点には結びつきませんでした。

後半7分、中央から右サイドへ展開し、そこから中央へのスループাসで抜け、GKも抜きシュート。待望の追加点。

その後も両サイドからの攻撃ができ、後半13分、中央から右サイド、センタリングで中央へ、それをヘディングでシュートしたが、GKにはじかれる。しかし、そのこぼれ球を詰めシュート。3点目となりました。

後半15分、相手GKからのキックをカットした左フォワードがそのままシュートしゴール。4点目。

その後はやや押され気味となり、後半17分には自陣右サイドでファール、相手にFKを与えてしまいました。後半19分には、相手CKで波状攻撃にあいましたが体を張って守り切り、試合終了となりました。苦しい試合でしたが4-1で勝利し、準決勝への進出を決めることができました。

## ☆決勝トーナメント 準決勝

**とかち帯広FC 1-1 (PK3-2) 高部JFC (静岡県)**

対戦相手となる高部JFCの試合は、とかちの準々決勝後の試合でしたので、少し観ることができました。新座片山との試合を優勢に進めていて、FWに足の速い選手が二人、

トップ下にボールをキープでき、攻撃を落ち着かせられる選手がいる良いチームであることを確認することができました。

試合前のミーティングでは「DF 間の受け渡しを声でしっかりと行う。」ということを確認しました。

開始早々、左サイドをドリブルで突破されシュートされました。個での対応が難しいことを確認させられた場面でした。

とがちも前半 3 分、右サイドからパスをつなぎ中央→左サイドと展開し、反撃の糸口を探しますが、シュートまでいけませんでした。

前半 5 分にはバックパスのミスから攻められましたが、ボランチが上手くカバーし CK に逃げることはできました。

その後も前半 10 分、15 分と右サイドから中央へとつないでシュートまでいきましたが、得点できませんでした。一進一退を繰り返し、両チームともシュートを打ちましたが得点に結びつかず、0-0のまま前半が終了しました。

ハーフタイムには、「相手の右サイドが攻撃の基点であること。」「センターフォワードに相手 DF がついてくるから逆サイドが空くこと。」などを確認して、送り出しました。

後半 1 分、中央からのシュートで、まずは攻撃から入ることができました。一進一退が続く中試合は進みました。攻撃時にはセンターフォワードが二人にマークされ、苦しい状況でしたが、トップ下、両サイドが上手くボールを引き出し攻撃をつくりましたが、ゴールには中々結びつきませんでした。そこでセンターフォワードと右サイドのポジションを変えてみました。その采配が当たり、マークが減った右サイドからの攻撃が増えました。守備時にはこれまで取り組んできたファーストディフェンダーが速いプレスでコースを限定し、セカンドが奪うという形が定着しつつありました。また、ボランチが精力的に動き、要所で素晴らしいカバーをしていたことが目立っていました。

そして、後半 17 分、左サイドで奪ったボールを中央、右サイドと展開し、ドリブルで突破しシュート。待望の得点となりました。

しかし、その 2 分後、クリアミスから中央に渡りシュートされ失点。ここで試合が終了しましたが、1-1 の同点だったため PK 戦となりました。

先攻は高部 JFC でした。相手の 5 人中 2 人のシュートを GK がしっかりと止め、とがちは 4 人目までに 3 人が決め、勝利することができました。ファインセーブでした。

## ☆決勝トーナメント 決勝戦 とがち帯広FC 1-0 ダイナモ川越東（埼玉県）

準決勝終了から 15 分後に決勝が行われたため、対戦相手の情報をほとんど得られない中で、試合が始まりました。

試合前には「ここまで来たら気持ちで戦おう。」ということを確認し、ベンチにいる選手やコーチを含めた全員で円陣を組んでピッチへと向かいました。

前半 1 分、連続して CK をとりましたが、クロスバーをたたくなどあと少しでゴールとはなりませんでした。

前半 3 分には相手の CK となり、こぼれ球を拾われたり、パスカットされたりと、波状攻撃をされましたが、DF、ボランチが体を張って防ぎました。

前半 6 分、DF から中央→右サイド→左サイドとつなぎシュート。これがゴールとなり、待望の先制点となりました。

その後も、今大会を通して機能していた両サイドからの攻撃を繰り返し、シュートまでいく場面が何回かありましたが、GK 正面だったり、枠外だったりして追加点を奪えませんでした。

前半 12 分、13 分、19 分には相手の逆襲で DF がドリブルやスルーパスで抜かれてあわやという場面がありましたが、シュートミスをしてくれたり、偶然オフサイドになったりして失点には至らず助かりました。

ここで前半が終了しました。ハーフタイムには『サイドを（もっと）上手く使っていこう。』ということを確認し、最後の 20 分に向けて再度全員で円陣を組んで心を一つにしてピッチへと送り出しました。

後半の立ち上がりは相手のペースとなりました。後半 2 分、中央付近で FK を与えましたがシュートは枠外。

後半 4 分、右サイドのスローインから中央へ通されシュートされましたが枠外。

後半 7 分には、再び相手に FK を与えてしまいました。これも外れる。

後半 9 分、左サイドからのスローインから中央、そしてシュートされましたがヘッドでクリアー。

後半 10 分、パスをつながれ右サイドからのシュート。

センターバックの二人を中心にこの苦しい時間帯を守り切りました。

その後盛り返し、とがちも後半 12 分には右サイドからの攻撃でこぼれ球を何度も拾い、波状攻撃となりましたが決めることはできませんでした。

連戦の試合にも関わらず、足は止まらず走り切り、最後まで激しい攻防が続きました。そして待望の試合終了のホイッスルが響きました。



## さくらカップから見えた課題

文責：十勝トレセン U-12 スタッフ 牛木

### 攻撃

十勝の選手は基本的に技術が高く、相手コートに侵入し、選手同士のイメージが合致したときの攻撃は目を見張るものがありました。

一方で、自陣からのつなぎ（ビルドアップ）には課題が残りました。

いつ、何をみてどこに立つかを考え、ボールがないときの立ち位置を整理しなければな

りません。ボール状況、相手の立ち位置に応じて 1 人ひとりがポジショニングを考えることでスペースを生み出し、また、パスを受ける前からパスコースを探る・相手と駆け引きを始めるといったことをしていくことで自陣から安定した攻撃へとつなげられるようになるはずであると考えます。

また、オンの部分では、足元にコントロールする場面も多く、相手のプレッシャーが強くなった時には思ったようなプレーをさせてもらえない状況が散見されました。日常のトレーニングのプレー強度を上げることを通して動きながらのプレーを習慣化させていくことが今後の課題の一つだと感じました。

## 守備

狙いのあるファーストディフェンスから 2nd、3rd ディフェンダーが連動して相手の自由を奪い、ボール奪取に成功する場面が数多くみられたのは、これまでくり返してトレーニングしてきた成果の一つと言えます。相手に余裕を持ってプレーする時間を与えず、十分な規制をかけることで、ボールの出所を予測し、前線に放り込まれるボールも CB を中心としたカバーリングでチームの守備が崩されることはほとんどありませんでした。チームの CB が大会の最優秀選手賞を受賞したこともその一因と言えます。

一方で、ボール状況に対する理解がまだ甘く、ボールロストに備えた立ち位置の修正が遅れている場面が多々見受けられました。決勝トーナメントでは、その隙をつかれ、相手の圧倒的なスピードにゴールを脅かされる場面が見られました。そうしたことからボール状況や相手選手の質を感じ取り、相手に対して少しでも優位となる立ち位置をとり続ける個人戦術のレベルを上げていくことが課題の一つだと感じました。

## おわりに

優勝という形で終わることができたことはとても良い経験となりましたが、これで終わったわけではなく、むしろ始まったばかりです。選手もスタッフも今回の経験を生かして、より高いレベルのサッカーができるように日々、トレーニングを重ねていけたらと思います。

今回の遠征に関わりまして、船越サッカー少年団の鈴木代表や水野さんをはじめとする地元スタッフの皆さん、旅館日本閣の皆さん、そして、快く選手を送り出してくださった各少年団の監督・コーチの皆さん、各選手の父母の皆さん、支援して下さった(一社)十勝地区サッカー協会、十勝少年サッカー連盟に心より感謝申し上げます。

スタッフ一同、遠征の経験を生かし、十勝の少年サッカーのために今後も努力していきますので、どうぞよろしく願いいたします。

## 参加選手 20 名へのコメント

- ① 後方からのコーチングはチームを活気づけるものであり、チームに勢いをもたらしました。ボール状況に応じたポジショニングと足元の技術を身に付け、ゲームに関わり続けられるようにしましょう。
- ② キャプテンとしてオフ・ザ・ピッチでは周りをよく見て動けており、試合ではいい予測、タイミングから効果的に関わり、攻撃に厚みを持たせていました。速い強い相手に対してオフのポジション、駆け引きで上回れるようにしましょう。
- ③ 良いポジショニングからの素早いカバーリングでチームを救い、プレースキックでは多くのチャンスを作っていました。効果的なパスが後方から入れられるともっとチャンスは増えます。最優秀選手賞の活躍でした。
- ④ 対人守備、ヘディングの強さはチームに安定感をもたらし、質の高いロングパスでチャンスも作りました。常に選択肢のあるプレーを心掛けると良いでしょう。素晴らしいセンターバックのコンビでした。
- ⑤ 慣れないポジションに積極的にチャレンジし、相手のタイミングを外すドリブル、パスでチャンスメイクをしていました。自らゴールを狙う積極性と選択肢をより多く持てるよう、観るものを増やしましょう。
- ⑥ 足元の卓越した技術で前線での落ち着きをチームに与えました。また、高い向上心で遠征を通して素晴らしい成長をみせてくれました。運動量を増やすことで攻守に活躍できる選手になるでしょう。
- ⑦ 思い切りの良いインターセプトと前線への飛び出しで相手に脅威を与え、決勝では素晴らしい得点を決め、チームを優勝へと導きました。中盤のバランスを意識することでチームに安定感をもたらすことができるでしょう。
- ⑧ 持ち前のテクニックを生かし、創造力豊かなゲームメイクと相手を出し抜くプレーは意外性もあり、目を見張りました。攻撃の優先順位を意識したプレーができるるとプレーの幅が広がるでしょう。
- ⑨ 圧倒的な「個」の力で相手を脅かしたのと同時に味方へのチャンスメイクも多くあり、THE・ストライカーの活躍でした。マークの外し方など、オフの駆け引きの部分で相手より少しでも優位に立てるようになるのもっと多くのゴールを生むことができるはずです。
- ⑩ 献身的に攻守に走り回り、圧倒的なスピードで相手を置き去りにし、両足で高い精度のシュートを放ち多くのゴールを生みました。レベルの高い相手にも得意のドリブルでもっとチャレンジすることが自分の経験値になっていくでしょう。
- ⑪ 一瞬のスピードで相手を置き去りにし、ゴール前での落ち着いた駆け引きからのフィニッシュは大会の2日間ではケガをしており観ることはできませんでしたが、最高のプレーができるようまずはケガをしっかりと治してください。
- ⑫ 1対1での対応、球際の強さは目を見張りました。攻撃への関わりも試合を重ねるごとに良くなっていました。ボール状況でのオフのポジショニングを整理することでもっと楽にプレーできる場面が増えるでしょう。
- ⑬ 危機察知能力が優れており、相手のチャンスの芽を多く摘むことができました。また、広い視野から効果的な展開をすることができていました。更に運動量を増やすこ



とで相手への脅威となっていくでしょう。

- ⑭ ボールタッチの感覚はチーム随一で素晴らしいボレーシュートも叩き込みました。自分のストロングポイントでもあるドリブル突破を強い気持ちで何度もトライしていくことで誰も手に負えない選手になっていくでしょう。
- ⑮ テクニックを活かし、局面を開く力を見せてくれました。左足からの放たれるボールは魅力的でした。守備時に常に2つ以上の事を考えられるとポジショニングも修正され、持ち前の球際の強さも存分に生きてくるでしょう。
- ⑯ オフの際のポジショニングは試合を重ねるごとに良くなっていきました。自分のスピードにもっと自信をもって、積極的な攻撃参加からの精度の高いシュート、パスへと繋げられるよう頑張りましょう。
- ⑰ サイドバックとしてビルドアップの際は攻撃の起点となっていました。また積極的な攻撃参加は数的優位をうまく作り出し、相手を迷わせ、意図的に崩せていました。良い予測からの球際の強さがあれば良いでしょう。
- ⑱ チームのバランスをとり、ゲーム展開を読む力は見事でした。パスとコントロールの精度も高かったです。運動量を増やし、また、球際の強さを身に付けてもっともっと積極的にプレーして行ってほしいです。
- ⑲ 多くの要求に積極的にチャレンジし、シュートにもっていくまでのアイディアには目を見張りました。オフの動きに磨きをかけるとともに、シュートの際にはキーパーと駆け引きすること、遊び心を持つことを意識すれば確実にゴールを奪えるでしょう。
- ⑳ 試合を重ねるごとに貫録がつき、シュートストップ、ディストリビューション、コーチングも素晴らしかったです。セットプレーの対応を身に付ければ更によくなるでしょう。

